

表紙の写真は今年の 11 月の中旬。

童謡にもある一面の紅葉に囲まれた「まっかな秋」の景色もい

のですが、赤だけでなく黄色やオレンジ色や緑色等いろいろな色がある景色もいいですね。(^^)



樹々が色づく季節になると、ウィンタースポーツの季節。

秋の彩りにまけない華やかな衣装のフィギュアスケートでは、一度引退した高橋大輔選手（32 歳）が現役選手として再挑戦をしています。

心理学者ユングは、人生を少年期、青年期、壮年期、老年期の 4 つに分けましたが、30 歳以降は壮年期と位置づけられ、壮年期はその内的価値に関心が向かう時期といわれています。

ブランクもあり体力的には全盛期には及ばないかもしれませんが、表現力という武器は増しているはず。

10 月 8 日の近畿選手権では総合 3 位に入賞、次のステップとなる西日本選手権への進出を決めました。

挑戦は尊いこと。日本選手権での高橋大輔選手の活躍を見ることができれば嬉しいと思っています。



さて、10 月 5 日、政府は未来投資会議を開き、現行で 65 歳までとなっている継続雇用の義務付けを 70 歳まで引き上げる方向で本格的な検討を始めました。早ければ 2020 年の通常国会に高年齢者雇用安定法の改正案を提出し、まずは企業の努力義務とする方向で調整すると発表がありました。

現在の法律上の定年は 60 歳。但し企業側には従業員が希望すれば 65 歳まで再雇用（継続雇用）する義務があります。ここで検討を始めたという内容は定年 65 歳、さらに 70 歳まで再雇用（継続雇用）する義務を企業側に課す方向で動くということです。

現在の法律上の定年である 60 歳は還暦といわれていますよね。

還暦には生まれ直しという意味があります。この「赤ちゃんに戻る」ことから、

「赤いちゃんちゃんこ」を贈るという慣習が生まれたそうです。

平均寿命が延びた現在では、長寿のお祝いというより人生の区切りとしてお祝いし、いつまでも元気で長生きして欲しいという意味を込めて、「赤」の入った贈りものをする人が多いようですね。



孔子の論語は「十有五にして学に志、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順、七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず」と 70 歳までの成長を説いています。

「十五歳で学問に志し、三十歳で自立した。四十歳で狭い枠にとらわれないようになり、五十歳で天命を知った。六十歳で人の言うことを逆らわないで聴けるようになり（耳順）、七十歳で心の欲するままに任せても限度を超えなくなった（従心）。」

（ちなみに僕の次のステップは「耳順」。耳が痛いくらい程遠いっす・・・(+_+)）

60 歳での「赤」は、道なかばのマイルストーン。

還暦過ぎた人生の先に挑戦することで、人生にさらに彩りが添えられるのではないのでしょうか。

これから盛り上がるウィンタースポーツの一方で、残念な結果でペナントレースを終えた阪神タイガースのこと。新しく来シーズンの監督となった矢野燿大さんは僕も好きな選手でした。現役引退後さまざまなジャンルの読書にも挑戦し、アドラー心理学の造詣を深めているそうです。

アドラー心理学の解説本「嫌われる勇気」には「自由とは他者に嫌われることである」とあります。

しがらみの多い人気球団で大変とは思いますが、自由に采配を振るってもらって新人の監督らしく思い切って挑戦してほしいと思っています。そしてタイガースカラーの黄色が、僕の愛する広島カープの赤い色とともに(^^)、シーズン終盤まで賑わう来年の秋を期待しています。



かっこばせ～
や～の～
や～の～
やあ～のお～
by ストリーク

